

## 令和元年度第1回埼玉県立図書館協議会会議録

### ◇ 日 時

令和元年7月25日(木)午後2時00分～午後4時45分

### ◇ 会 場

埼玉会館 4A会議室

### ◇ 出席者

#### (1) 出席委員

市川栄子委員、佐々木美智子委員、後藤悦子委員、笛木智恵美委員、  
江田明子委員、小澤嘉昭委員、神原和子委員、後藤愛委員、  
酒井由紀子委員、滝澤正文委員、田口義明委員、波田野育男員、  
日向美津江委員

#### (2) 図書館職員

##### 【県立熊谷図書館】

金子隆館長、今井久典副館長、荻原俊文副館長、  
峰岸まり子主席司書主幹、村上愛担当部長、大橋はるか司書主幹、  
金子雅則担当課長、鈴木貴之主事

##### 【県立久喜図書館】

高橋和治館長、福沢景副館長、高橋勉副館長

#### (3) 教育局職員

関口睦市町村支援部長、横松伸二生涯学習推進課長、  
山縣睦子生涯学習推進課主査

### ◇ 会議次第

#### 1 開 会

〔熊谷図書館 今井副館長〕

#### 2 任命状交付 関口市町村支援部長

#### 3 あいさつ 関口市町村支援部長

#### 4 委員紹介

#### 5 会長・副会長選出

委員の互選により、会長に酒井委員、副会長に波田野委員を選出した。

#### 6 会長・副会長あいさつ

#### 7 職員紹介

職員紹介後、関口市町村支援部長及び横松生涯学習推進課長は所用のため

ここで退席した。

- 8 平成30年度第3回会議録の報告  
全出席委員、異議なく承認された。
- 9 会議録署名委員の指名  
会長が、後藤悦子委員と小澤嘉昭委員を指名し、了承された。
- 10 会議を公開することについて議決  
傍聴希望者はいない旨の報告あり。
- 11 議 事

- (1) 埼玉県立図書館について

〔熊谷図書館 荻原副館長〕

資料1「埼玉県立図書館について」に基づき説明。

【質疑】

委員からの発言なし

- (2) 平成30年度事業実施状況について
- (3) 令和元年度予算及び事業について

〔熊谷図書館 今井副館長〕

令和元年度要覧に基づき、平成30年度事業実施状況及び令和元年度予算及び事業を説明。

【質疑】

委員／情報化推進事業のところですが、1億1,443万1千円の予算を前年度計上したのは、コンピュータシステムの更新があったからですよ。そうすると、この差の約7,800万円がそれにかかったものだと思います。総合計の差が7,682万2千円なので、ほとんどがこのコンピュータシステムに係るものだと思いますが、コンピュータシステムの更新があった時は、予算はどのように付いてくるのでしょうか。例えば、どうしてもシステムの更新をやった結果、不具合などが出てくるのではないかと思います。その辺についての予算についてお伺いできたらと思います。

事務局／コンピュータシステムの更新は昨年度終わりました。今後運用していかねばなりませんので、その運用経費については今年度もこの予算の中に入っています。ですので、コンピュータに不具合が生じた場合などはそちらの予算で委託業者に対応していただくことになっています。

委員／どうしてもこの予算内で納めなくてはいけないということですか。

- 事務局／保守については計上している予算の中で対応ができます。
- 委員／1の管理運営関係予算と、2の県立図書館関連事業予算がありますが、どのような区分になっているのでしょうか。それから、来年度に向けていろいろ事業を評価されていると思いますが、それは主に2の関連事業予算について評価していくという理解でよろしいでしょうか。
- 事務局／1の予算はどちらかと言えば経常的な管理予算となっております、2は主に政策的な予算になります。特に県立図書館サービス充実強化推進事業については、いわゆる重点サービス関係の予算となりますので、こちらについては、しっかりと評価をし、予算要求するときに財政局と議論する予算となっております。
- 委員／18ページで利用統計を御説明いただきましたが、5年分統計が載っていて、全体的にどれも少し下がっている傾向があるなと思います。3館体制だった平成26年度が利用としては一番高いという印象で、平成27年度は改修などがあって下がっていて、その後少し上がっているようですが、図書館を2館体制にしていく中で、どの項目を3館体制だった時の利用状況にしたいとか、もしくは新たな目的があるとか、そのあたりはどうかと思います。レファレンスに重点を置いていくということですが、18ページの中段の左側の参考調査の件数のところになるかと思いますが、平成26年度くらいの高いレベルを目指しているのか、そういったところはどうかのでしょうか。
- 事務局／図書館の思いとしましては、当然3館体制の時の状態まで数値が上がってくればよいなと思っています。レファレンスは図書館の中核的な用務の一つですので、レファレンスという言葉が県民のすべてが御存じかどうかわかりませんが、しっかりと広報しながら、平成26年度に近づけていくということは大切なことだと思っています。引き続き努力していきたいと思っています。
- 会長／この後説明があると思いますが、重点目標のところでも、こういったところを目指すのかどうかの説明があるかと思いますが、御参考になさってください。それから統計のことが出ましたので、16ページと17ページにあります平成30年度の利用状況について2つ質問があります。開館日数ですが、3館合計で736日という説明がありましたが、この数字は意味があるのかなと若干疑問に思いました。もしかすると3館の平均の日数を出したり、あるいは休んでいる日数が少なくなったという数字を出した方がパフォーマンスを見せられるのではないかと思います。もう1点は障害者の資料利用が若干減っているのが気になりました。一般の資料については、おそらくデジタル化ですとか、インターネットの利用などによりいわゆる貸し出しは減

っているのかなと思っていたのですが、障害者向けの資料の利用が減っているというのはどういう状況なのかを、図書館の方でも結構ですし、今日は特別支援学校の関係者もいらっしゃるので、参考までお聞かせいただければと思います。

事務局／1点目の開館日数については、御意見を参考にさせていただき、次回工夫をさせていただきます。

事務局／障害者サービスの数字が若干伸び悩んでいるということですが、決して需要がないと捉えているわけではありません。最近いろんなツールが開発されていて、必ずしも図書館の資料でなくても、障害がある方がご利用できる機会が増えていきますので、どうもそちらのほうの御利用が進んでいるのではないかと考えています。具体的にはサピエ図書館という民間団体が運営する仕組みがありますが、そちらでデジタルデータを提供しておりまして、御登録された方は御自身のパソコンにダウンロードして、そこから資料を入手することも可能となっています。既存の図書館を経由せずとも読む機会が増えていきますので、もしかしたら少しずつそちらの方にシフトしているのではないかと思います。しかし、我々としては、それも重要なことですが、自前で持っている資料もお使いいただくため、いろいろPR活動をしていますし、特に学校に向けて子供、親御さん、教員にもぜひ使ってもらいたいということで、今年は重点的にPR活動を行っていますので、この当たりで踏ん張っていければと思っています。

#### (4) 埼玉県立図書館運営の重点目標（平成28年度～平成30年度）の実績と評価について

〔熊谷図書館 大橋司書主幹〕

資料2「埼玉県立図書館運営の重点目標（平成28年度～平成30年度）の実績と評価について」に基づき説明。

#### 【質疑】

委員／資料2の2ページのレファレンスの処理件数について、個人ということで、平成28年度から平成30年度の件数が出ていますが、個人の方がこれだけの件数を調べてほしいということが出てきたと思うのですが、これの年代別、例えば10代の方、20代の方、30代の方、あるいは高齢層の70代、80代の方、そういう区別というか、そういう統計の取り方はされていないのでしょうか。もしあったら、その推移、例えば高齢者の方は増えているが、低年齢層の方は減っているとか、そういうことがわかれば教えてください。同様に資料8ページ

のボランティアの受講者数も目標値になっていて、結果的には平成30年は1,013名ですが、これの年代別の数字もわかれば教えてください。

事務局／レファレンスの年代別につきましては、実際に質問を受けたときにその方の年齢を伺っていませんので、そういった統計は出してはおりません。ただ具体的な1個1個の質問ではないのですが、年に1度利用者アンケートというのをやりまして、その時に「レファレンスについて御存じですか」とか、「使っていますか」とか、「レファレンスの対応について満足ですか」といった質問をしております。その時には年代別に回答を分析することはできるのですが、レファレンス1つ1つに対しての統計は今のところとしてはいません。また、ボランティアにつきましても年代別の統計はまだありません。

事務局／レファレンスの利用者の方ですが、感覚的には年配の方が多く聞いております。

委員／多分そうだと思います。高齢者になればなるほど、向学心も出てくる方が非常に多くなってきていますし、一概に目標数値に対して少し足りないから評価基準を2とするのはどうなのかなと思いました。やはり年代別に捉えた方が、今後対策を打つにしてもよいと思います。ボランティアに関しての研修で対象になった人がこれだけいるというところに関しても、感覚的にはどうですか、若い人が多いですか。

事務局／ボランティアについても、シニアが多い印象です。

委員／ボランティアですからシニアの方が多いのだろうなという想定はつくのですが、4番目のボランティアのところに関しては、シニアの方がやられるというのも非常に大事だと思いますが、特に若い世代からボランティアというところに入ってもらう動きも必要ではないかと思えます。そのためにもデータとして持たれて、毎年分析されて、減っているのか、増えているのか、増えているとしても目標に達していなければどういう手を打つかというところができるように、是非世代別にしっかりデータをとって、それに対しての対策を打てるようにお願いしたいと思います。

事務局／貴重な御意見ありがとうございました。今後事業を実施していく上で参考にさせていただきます。

委員／ただ今の御質問に関連してお伺いします。レファレンス処理件数ですが、どの分野の相談が多いのか、そういう数字はわかりますか。3ページにあるようなビジネス支援とか健康医療とか、こういう分野の問い合わせが多いかと思えますが、平成30年度ですと411件という数字です。2ページの平成30年度末の数字ですと約3万5千件と

なっていますが、この内訳についてはどのように考えたらいいのでしょうか。要覧ですと所蔵調査は2万2千件くらいで事項調査が1万4、5千件くらいとのことですから、レファレンス処理というのはこの事項調査にほぼ相当してくるかと思うのですが、どのような分野のものか、資料2の3ページにあるビジネス支援とか健康医療のレファレンス実績の数字の感じとは違うものですので、どのような分野が多いのかわかれば教えてください。

事務局／まず、先程のビジネス支援と健康医療情報につきましては、課題解決型サービス事項調査数として合計で411、ビジネス支援の件数が342、健康医療が69という数値になっています。個人のレファレンスの件数の合計、先程の35、512件ですけれども、その中の分野ごとの内訳は、申し訳ありませんが今は御説明することが出来ません。そのうちの、例えば所蔵調査の件数、簡単な「この本はありますか」という調査の件数は、熊谷図書館ですと6,920件、事項調査、詳しく調べものに対して「こういった資料があります」とか調べ方について御案内していますのが、これが1,848件、ちょっと簡易な利用案内に関しては3,783件という数値になっています。それぞれ浦和分室、久喜図書館ともに数字が出ていまして、久喜図書館ですと、所蔵調査の件数が14,411件、利用案内については、3,738件、事項調査については、3,859件という数値になっています。このあと御説明しますが、今年度から新しい目標を立てて、レファレンスの件数なども目標値になっていますが、それにつきましては、簡易な調査ではなく、事項調査に絞った件数で目標値を作っております。

委員／そうしますと、要覧とのリンクということでは16ページの2の参考調査の「所蔵調査受付件数（個人）」、その下の「事項調査受付件数（個人）」これにほぼ相当するということですね。そうすると、どういう分野でレファレンスがあるかというのは、所蔵調査を別にすれば「事項調査受付件数（個人）」、これになるかと思いますが、重点目標の中でこの目標だけが全体としてもう一歩という状況になっています。こういうものをこれからカバーしていくとか、補っていくと思ったら、どういう分野のレファレンスに対応していくか、強化していくかということを考えていく必要があるかと思いますが。この約35,000件あるいは目標値の50,000件の中で、こういう分野でこれくらいのレファレンスに対応していこうというような想定があるとすれば、そこに実績があまり出てこないのならそこを強化していくことになるかと思いますが、想定と実際とのギャップを埋めるためにどの

ように取り組んだらいいかというようなことで何かお考えになっていることがあれば教えてください。

事務局／私は、昨年度、久喜図書館のレファレンスサービスを担当しておりましたので、感覚的ですが、どの分野が弱いというわけではなく、あらゆる分野から質問があります。約35,000件すべてではありませんが、レファレンスの記録を取っておりまして、こういったレファレンスを受けて、何を使って回答したかということも記録を取っております。今、委員から貴重な御意見をいただきましたので、その記録を数年分遡って、こういった分野が多いのかということを確認いたしまして、県立図書館としてどういう分野が強いのか、この辺が弱そうだということを確認しまして、今後のいろいろな政策的なことを考えていきたいと思っております。貴重な御意見をありがとうございました。

会長／記録には、先程出た年代とか、推定でも記録が残っていたりしますか。

事務局／レファレンス記録には、特に年代などは個人情報でもあるため、書いていませんが、感覚的には年配の方からのレファレンスが多いというのを実感しています。特に電話でのレファレンスだと声の感じから年配の方だろうという感じです。例えば、「これって今どきの子だったらすぐにスマホで調べられるよね」ということも聞いてくる方は結構いらっしゃいますので、年配の方なのかなと想像できます。先程も説明がありましたが、年に1回利用者アンケートを取っておりまして、そこでは年代別もとっておりますので、それと合わせていろいろ考えていきたいと思っております。35,000件全部の記録はさすがに取れませんので、主なものといえますか、記録が取れるものは取っておりますので、それについて確認いたします。

(5) 埼玉県立図書館運営の重点目標（令和元年度～令和3年度）に係るサービス評価指標について

〔熊谷図書館 大橋司書主幹〕

資料3「埼玉県立図書館運営の重点目標（令和元年度～令和3年度）に係るサービス評価指標について」に基づき説明。

【質疑】

委員／基本方針、重点目標4について、感じたことをお話をいただければと思います。学校図書館等との連携ということで、大変ありがたいと考えています。自分を振り返ってみますと、図書館を利用するきっかけとして、やはり学校図書館、学校で図書の貸出しをしてもらっ

て、家に持って帰ってというところからスタートしたように記憶しています。先程、図書館のレファレンス利用者の年齢層が高くなっているというお話がありましたが、学校図書館では学年世代を背負って指導しているということもありますが、意欲関心がある生徒であれば外に飛び出して地域の図書館に行ってみようと積極的に踏み込んでいいのではないかと思います。これから学習指導要領も変わりまして、探究型の学習に切り替わった時に、学校では図書館の役割、それから地域についても図書館利用ということがとても重要視されて、生きる力につながっていくと考えています。学校司書については本務者が1名あるいは臨時的任用者で成り立っているところがあります。先程、研修のお話が出てまいりましたので、是非1人しかいない職種である学校司書を県立の司書の方と一緒に連携した研修ということに取り込んでいただけないかということが1つ思ったところです。それから、特別支援学校の貸出しが0件とあったのは、一つは塙保己一学園以外に、特別支援学校は35、6校ありますが、司書という専門の職員はおりません。全部学校が資格を持った人を司書教諭として発令していくのですが、司書と司書教諭との間には役割が明確でなかったり、仕事への理解に対するところがまだ曖昧であるといった場面があります。そういった意味で、もう少し司書の役割と言いますか、司書の方の、こんなことを調べたいといったときにこんな本がありますよ、これ調べたらどうですかといった、人的な力というものを、私は至極素晴らしいと感じていますので、私としては学校図書、県立図書館がさらに県民に利用してもらえるように、小さい子供、学齡児、就学齡以前の子供にきっかけを与える司書の資質向上をお願いできたらと思います。特別支援は、一部を除いて特殊な事情を持っているので、今回0件となっておりますが、実は久喜図書館の館長が我々の特別支援校長会議に来ていただき、実演をしていただいたり、御説明やパンフレットをいただいたりしておりまして、校長会としても各特別支援学校で読書指導を踏み込んでいこうと会長から言われています。そういったことで、少しでもお助けでき、そして子供たちのためになる読書活動の推進につながっていければと思っていますので、貸出しの御支援をいただければと思っています。

事務局／研修についてですが、埼玉県図書館協会で実施している参考調査研修については、埼玉県図書館協会から埼玉県高等学校図書館研究会にも御案内しておりまして、たまにおこしになる方もいらっしゃいますが、やはりどうしても公共図書館主体となりますので、なかなか御参加いただけないかなというところはあります。ただ、ここ数年ですが、



埼玉県高等学校図書館研究会主催の夏季研修に県立図書館から講師として何人か呼ばれています。今年度も海外資料担当が行くと聞いておりますので、こういった形でいろいろ交流できればよろしいのかなと考えています。昨年度からですが、司書採用がずっと中断していて、採用が再開になった人が5年を経験した後に受ける研修をやりまして、それが県立図書館の職員、高校図書館の職員一緒に合同研修というものをやっていますので、それでまたそれぞれの交流が深まっていけばよいのかなと考えています。

事務局／補足ですが、今、埼玉県図書館協会という言葉が出てきました。埼玉県図書館協会というのは、要覧の5ページの右下に記載があります。市町村立図書館、県内の大学図書館、高校図書館を会員とした任意団体として、これらと連携を図りながら館種を超えた本県図書館サービスの振興に努めています。協会内には研修企画委員会、参考調査委員会、地域資料委員会、そのほか児童サービス、障害サービスなどの各専門委員会を設置して、要覧の21ページにあります研修事業を埼玉県図書館協会と協力しながら実施しています。研修の内容によって、当然高校の司書を入れて全県的にやっています。

事務局／学校で勤務されている司書の方への研修という話がありましたが、追加でお話をさせていただきます。今お答えしましたとおり、県立の司書、県立学校に勤務する司書につきましては、研修の機会を少しずつではありますが増やしているところですが、小中学校で働いている司書につきましては、そういった機会がほとんどありません。市町村独自で行っているところもわずかではありますが、ほとんど機会がないといっても言い過ぎではないと思います。実は市町村によって司書の配置のレベルもかなり差がありまして、市町村のお金で人員を雇用して各学校に配置している市、町もあれば、そういった手立てを講じることが出来なくて、非常勤という扱いで週に1日、2日程度いらっしゃるって、あとは無人状態というところもまだまだあります。そういった方には是非研修の機会を提供しなければならないということで、久喜図書館では夏休み期間中に主に小中学校で勤務されている司書の方を対象に、学校と公共図書館、あるいは学校図書館との連携というところを主なテーマとしてここ数年、講座を設けまして参加いただいています。学校図書館のレイアウトの仕方ですとか、子供が喜びそうな選書の仕方ですとか、そういった基礎的な話ですとか、もう少しレベルの高い話もさせていただいています。そういったところが少しずつ浸透していければ、全県的なレベルアップにもつながると思っています。ただ、問題は、非常勤としてしか雇っていない市、町などは、

夏休みの期間中は雇用していません。つまり、1学期、2学期、3学期の学期期間中は非常勤発令をして、週に1日とか2日、学校図書室にいただいているのですが、夏休み中は学校も授業がないものから、非常勤の方はその時期無職状態というところまで、身分がない状態です。本当はそういった方に来ていただきたいのですが、出張命令という形で学校から行ってきなさいという命令も出しにくいものですから、そういったところでどう手を出そうかということが今後の課題と考えています。中には自腹でもいいですからと来てくださっている方もいるのですが、市町村も巻き込んで、そういった学校で働く司書の方の資質の向上、図書館運営のレベルアップは大きな課題でありますので、今後も研究してまいりたいと考えています。特別支援学校での読書活動の推進ですが、先程、委員からお話がありました、これからまた頑張りますので、何なりとお申し付けください。実は今一つモデル的に行っていることがありまして、具体的に名前をあげますと、騎西特別支援学校がありまして、正直特別支援学校はなかなか子供の数が多くて図書室のスペースを作ることが出来ないのですが、その中で何とか工夫して図書室らしいスペースをまず作っていきましょう、さらには専門の司書の方がいませんので、司書教諭の先生と久喜図書館の職員が連動して、レイアウトをしつらえましょう、本を集めましょうと、この秋口から始めましょうと少しずつ動き始めているところですので、そのモデル事例を皮切りにして県内にたくさんあります特別支援学校にも、学校と公共図書館との連携みたいなところを少し広めていければと考えています。

委員／ただ今の御説明のあった研修ですが、これは非常に大事だと思います。そういう形で県立図書館と各学校、市町村の図書館の方々をつながりができるといいますか、顔と顔がつながると次の業務にもつながっていくということでもあると思います。そういう観点では、先程の目標の1番、レファレンスの処理件数がもう一つという話も、そういう形で人と人のつながりができてくると、あの人は非常によく知っていたから聞いてみようですとか、そういう形で業務にもつながっていくことにもなっていくと思います。単に研修というだけではなくて、それ以外の目標にもつながっていく面があるかと思いますので、是非そのあたりを充実していただけるとありがたいと思います。それから今回の計画で、数値目標を3段階で設定されましたが、これは非常によいと思います。従来の計画ですと、単一の指標を象徴的にとって目標達成を目指そうということですが、いろんなレベルの指標が混在していて、それに対してインプットと実際にどういう活動をして、その

成果としてどういう満足度につながるのか、そういう3段階で各目標を設定していただいていますので、こういう形ですと総合的に図書館の活動をとらえることにもつながるということでもあると思います。その関係で質問ですが、目標1の活動指標、レファレンス件数（事項調査）とあって、これが5,300件という目標を設定されていますが、これは今までの計画の50,000件とどういう関係になるのでしょうか。1桁違うのですが、たぶん取り方が違うと思うのですが。もう1点はレファレンスの満足度ですが、最終的には満足度を向上させるところにつなげていくということで非常に重要な指標だと思いますが、満足度が重点目標の1、2、3、4、5で微妙に違ってきます。いずれも4点台ですが、「4.4」とか「4.8」「4.0」とか目標によって少しずつ違ってきます。5段階評価で4だといいい線いっているじゃないかと思っていて、通知表でいえば4をもらえたとなるのですが、4の中でもいくつかレベルを変えてターゲットを置いています。これはどういう根拠なり、バックグラウンドで設定されているのか、「4.8」などは相当難しいレベルじゃないかと思えます。他方「4.0」というものもあります。その辺は何かバックグラウンドがあるのかどうかを教えてください。

事務局／レファレンスの事項調査の件数ですが、5,300件ということで昨年度までの目標値とかなり少なくなっているのですが、こちらは所蔵調査とか利用案内、簡易な案内を除きまして、実際に時間をかけて調査をする事項調査というのが県立図書館の専門の資料を使った県立図書館らしいサービスですので、その事項調査に絞った数となっております。そのために少なくなっています。満足度についてですが、こちらはそれぞれ4以上でそれぞれの目標について違うのですが、これは過去に取りましたアンケートの結果を基にしまして、その平均と、現在の状況などを考えながら設定したものになります。レファレンス満足度につきましては、これまでの利用者アンケートで行いました満足度の平均などから出したものになります。協力レファレンスの満足度が非常に高いのは、市町村立図書館へのアンケートをいつも行っているのですが、毎年高い評価をいただいております、それ以上を目指したいということになっています。目標2の商用データベースにつきましては、今までアンケートを取っておりませんので、こちらは推定のものになっているのですが、ウェブサイトの満足度につきましてはこれまで取ったアンケートから出したものです。また、研修や県民向けの事業につきましても、参加者のアンケートを取っていますので、その結果から出したものになりますので、それぞれ違っております。

- 委員／ありがとうございました。よくわかりました。特にレファレンス件数の事項調査の取り方、こういった形で限定的にするというのはよいと思います。闇雲にレファレンスの件数を増やすということを目指すのではなくて、県立図書館らしい問い合わせを受けて、それにしっかり対応するという観点から、こういう事項調査のような割と専門的なものを一定の件数を受けて、それにしっかり対応するという事で、それが最も県立図書館らしい、中核的な機能でもあろうかと思えますので、是非達成するように努力いただければと思います。
- 委員／先程の利用者アンケートについて、満足度をはかるということですが、この利用者アンケートはいつ、どのように行っていくのかを教えてください。
- 事務局／昨年度までですが、毎年2月の第1週の金土日の3日間に、直接来館者の方に職員がアンケート用紙を手渡しまして、それを回収するというやり方で実施しています。
- 委員／実際にレファレンス利用者が満足度を答えるというわけではなく、サービス全体の中での満足度ということによろしいのでしょうか。
- 事務局／利用者アンケートにつきましては、今まではそのような形で行いまして、例えばレファレンスですとか、県立図書館が持っている蔵書についてどう思っているか、満足しているかということについて聞いていましたが、今年度の利用者アンケートの満足度の調査につきましては、これから館内で検討しまして、利用者アンケートの内容についても検討する予定でいます。
- 委員／アンケートについて一つ質問ですが、外国人の観光客ですとか、地域に住んでいる外国人の方にもアンケートをとられているということなのでしょうか。
- 事務局／利用者アンケートはその時に、その期間に図書館にいらした方に渡していますので、もしその期間にそういった方がいらっしゃればお渡ししていることもあるかもしれませんが、そういった方を対象に絞ってこれまでやったということはありません。
- 委員／最近では図書館を利用する機会が減ってしまったので、今の状況はわかりませんが、外国人の方が非常に増えていると思います。その方たちの対応として、いろんな国からいらしていると思いますが、対応できる職員が何人かいらっしゃるのか、もしくはネットというか、書面で何か説明されるのか、こういった対応をされているのか、少し疑問に思いました。
- 事務局／熊谷図書館には海外資料担当というのがありまして、海外資料の部屋があります。35言語に対応した外国の資料が置いてありまして、

各国の教科書ですとか、日本語を学ぶための資料、日本の文化を知るための資料があったり、多読のための本があったりします。また、外国人の方へのサービスですが、昨年度海外資料担当の方で指さし案内のシートを作りました。要覧の19ページに市町村立図書館等支援のための事業実施状況というのがあり、その一番下に指さしコミュニケーションシートというのがあります。こちらは図書館に来館する外国の方とのコミュニケーションを円滑にするために、ピクトグラムですとか簡単な言葉が書いてあり、それを指さすことでコミュニケーションが取れるシートになっています。こちらは図書館の各カウンターに置くとともに、図書館のウェブサイトにも掲載して、他の図書館でも活用していただくように作っています。

事務局／補足させていただきます。今の指さしシートですが、図書館でよく使う単語ですとか、簡単なフレーズが外国語、日本語、ピクトグラムで記載されているシートです。日本語が不得意な方と、外国語が苦手な図書館職員をつなぐコミュニケーションのツールとして県立熊谷図書館が開発したものです。やさしい日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語の5種類作成しまして、今後も他の機関の協力をいただいて他の言語での作成を目指しています。このシートは県内で大変好評でして、いろいろなところから引き合いがあります。県立図書館だけでなく、各市町村立図書館も同じく外国の方の対応に苦慮しているところだと思います。現在在留外国人の方は160か国で17万人ぐらいいるということですので、今後はオリンピックなどもあり、もっと増えていくと思いますので、まずはこの指さしシートを県内に広めて、市町村立図書館等を支援できればと思います。

#### (4) その他

ア 「令和元年度関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会」の開催結果について

〔熊谷図書館 峰岸主席司書主幹〕

資料4「令和元年度関東地区公共図書館協議会総会・研究発表大会の開催結果について」に基づき説明。

#### 【質疑】

委員からの発言なし

イ その他

委員／資料1の説明の中で、ときがわ町に旧浦和図書館にあった書籍が全部そちらに保管されているとうことですが、そのことについてもう少し詳しく教えてください。

事務局／浦和図書館が廃止になった時、丸々1館分の資料を移さなければならなくなりましたが、基本的に県立図書館というのは、今までの再編、例えば川越図書館をなくした時もそうでしたが、もちろんダブっている本は処分して県民の方に差しあげるなどしてきましたが、1冊しかないものについては捨てないでそのまま引き継ぐということをしてきました。川越図書館を廃館した時には4館とも本をダブって所有していたことが非常に多かったものですから、そこではだいぶ分量が減ったのですが、今回はそのあとの動きですので、浦和図書館1館分の資料をどこかに移さなければならない状況でした。ただ、熊谷図書館については、これから第2回目の協議会で熊谷図書館が会場になりますので御覧いただけるとは思います、非常に小さい建物でして、とてもそういうスペースを設けることが出来ませんでしたので、本を置く場所として探しましたところ、県西部のときがわ町に廃校になった県立高校がありまして、その建物を利用して、書架を大量に設置して収めたところ。そちらには熊谷図書館から定期的に職員が行きまして、もちろんそこにある蔵書もリクエストが入りましたら貸し出しますので、ピックアップをして持ってくるという作業を平日ほぼ毎日やっているところです。

委員／先程話題になりました研修の件ですが、埼玉県図書館協会と県の学校図書館協議会の共催ということで、来週となってしまいましたが学校図書館職員と学校図書館関係者の資質向上を図るということで越谷の公民館で研究大会を行います。参加者としては、小中の司書教諭、臨時になりますが学校司書の方たち、学校司書という名目ではないのですが支援員の方がたくさん集まって研修会を開きます。以上お知らせでした。

以上で、議事終了。

12 閉会

〔熊谷図書館 今井副館長〕

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印